

栗島浦村立栗島浦小学校



学校データ

【学級数】

複式3学級

【児童数】

10人

【地域コーディネーター】

無

地域との連携・協働により自己肯定感を高め、自立できる子供の育成

1 はじめに

岩船港から35kmに位置する栗島。周囲わずか23kmの島の東西に2つの集落があり、約350名の人情味あふれた島民が生活している。当校は島で唯一の学校であり、村民は学校教育に非常に協力的であり、毎年地域密着の教育活動が展開されている。全校児童10名のうち、5、6年生に3名の留学生が在籍している。留学生は、親元を離れ寮生活を送っている。小中併設校である学校に求められることは、15歳で島を離れる子供たちに自立できる力を育むとともに学校がコミュニティの中核としての役割を果たすことである。

2 取組の実際

(1) 伝統あるわかめ採り活動

入学して間もなくわかめ採り活動を行う。前年の11月に子供たちがわかめの種付けをしたロープを4月の早朝に漁師・PTA役員・教職員が海へ出て引き上げる。この活動が地域の方々とかかわる一番初めの活動となる。



子供たちは、地域の方々から直接指導を受けながら包丁を使ってわかめをロープから切り離す。また、毎年行っている島の子供は、新規留学生たちに優しく作業方法を教えることで絆づく

りのきっかけとなる。また、地域の方々は、「よくできたね。」「手つきがとても上手だね。」と誉めて下さることで自分が活動に一生懸命取り組んだことを自覚し自分の行動に満足する。

(2) 誇り高き島っ子ソーラン演舞

4月に「南中ソーラン」をアレンジした「島っ子ソーラン」の練習に全校児童生徒で取り組む。島の豊漁を祈願する踊りは仲間づくりや友達と協力して一つの踊りを作り上げることをねらいとして行っている。



休み時間に小中縦割りの5～6名グループ毎に練習が行われ、毎回リーダーが練習のねらいや内容を説明し、島の子どもや上級生がリードして新規留学生や下級生に優しく踊りを教えていく。この島っ子ソーランは毎年観光シーズンを告げる5月の島びらきで披露される。観光客を出迎える活気あふれる踊りは大変好評である。また、島っ子ソーランは島民からも愛されており、敬老会や地域の祭礼等でも披露され、毎回大きな拍手に包まれる。伝統あるこの踊りは子供たちの誇りである。子供たちはこの活動を通して達成感と仲間と協力する大切さを学ぶとともに地域の活性化に貢献している意識をもつ。

(3) 味噌づくりとわっぱ煮づくり体験

栗島の伝統文化の一つであるわっぱ煮作り体験を新たな活動として取り入れた。昨年度、栗島で採れた大豆を使って味噌を作り、次年度その味噌を使ってわっぱ煮作りを行う。栗島浦観光協会の方をはじめ、地域の方々から御指導をいただきながら地元で採れた魚やネギを切ったり、わっぱ煮に石を入れたりする活動を行った。



このように地域と連携を図りながら児童の自己肯定感や自立心が高まるように活動を組織してきた。また、これらの活動が更に有効に働くように下記の取組をその都度、行ってきた。

(4) アワッターによる振り返り活動

上記に示した地域のためになる活動を意図的に行い、子供たち一人一人の自己肯定感を高めるために全校児童生徒が評価活動（アワッター活動）を毎回行っている。このアワッター活動とは、その活動において周りの子供のよさ探しをすることである。Aさんは、今年度新規留学生で四月から初めて島っ子ソーランに取り組んだ。そのAさんへの友達からの記述には次のような内容が記載されていた。

○初めてだと思うけど、すごく上手にできていたよ。話も聞いていてよかったよ。（中1生徒から）

○もうすぐ本番だね。今まで練習してきてうまくなったね。本番もがんばろう。（小5児童から）



このような評価をもらうことでAさんは自分の思いを素直に表出することができるようになってきている。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

(1) 自己肯定感の高まりについて

いじめの未然防止実践研究パイロット事業の取組を受けて6月に新発田市教育委員会教育長工藤ひとし氏を招聘し、御講話をいただく機会を設けることができた。その後の児童の振り返りを紹介する。

【児童の振り返りより】

自分を大切にという言葉が心に残りました。私は、「自分は～だ。」とか自分の悪いところを思っていました。でも、お話を聞き自分を大切にしてみ捨てないようにしたいです。

(2) 地域との連携協働の効果について

様々な活動を通して地域の方々からたくさん声をかけてもらったり誉めてもらったりすることで自分でもできるという自信を一人一人がもつことができた。また、わかめ採りやわっぱ煮をこれからも守り続けていってほしいと願う地域の方々の思いと合致し、双方にとって価値のある活動になった。

(3) 自立する心の醸成について

地域の方々は学校教育に非常に協力的であり、村全体で子供を育てるという風土があり、お年寄りには特に自分の孫のように子供たちに接してくれる半面、できることも手を差し伸べてしまうこともある。学校として地域ぐるみで自立できる子供を育てていきたいことを理解してもらわなければならない。

4 おわりに

学校の地域との結びつきは非常に強く、たくさんの活動が地域の方々の協力によって成り立っている。だからこそ、それらが一過性のものとならないように、ねらいを明確に取り組ませるとともに教科横断的な視点から教育課程の編成を図り絶えず見直していかなければならない。教職員や地域の方々とのベクトルの方向をそろえ、今後も一層地域連携を推進していきたい。